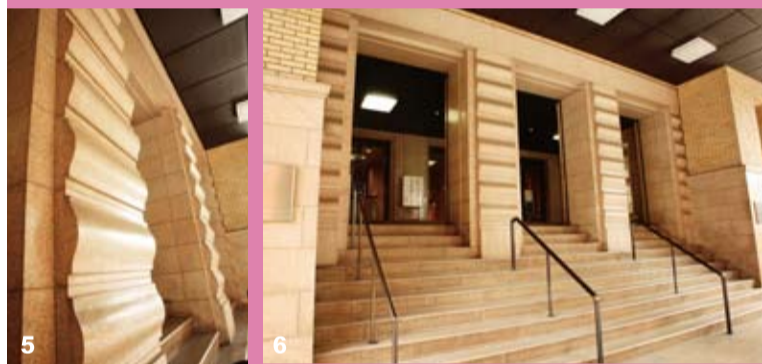




1 エントランスの車寄せを中心とした左右シンメトリーの端正な外観。
2 外苑東通りを通る人なら、だれでも振り返るような堂々とした建物だ。
3 正面の通りからはフラットだが、麻布台という住所名が示すように、丘陵地帯の高台に位置している。三年坂からの風景。
4 竣工の頃と思われる写真。
出典/『郵政建築 通信からの軌跡』(株)建築画報社



日本郵政グループ飯倉ビル 麻布郵便局

麻布台一丁目、飯倉片町交差点から飯倉へ向かう途中に、「麻布郵便局」がある。正式にはこの建物は「日本郵政グループ飯倉ビル」という名称で、グループの各会社が入居している。昭和初期に建てられた古いもので、外苑東通りに面したその風格ある構えは、麻布の代表的な景観といえるだろう。アール・デコ風のモダンなデザインも施され興味深い。歴史を調べ、建築を見学した。

鉄筋コンクリート地下1階、地上4階建てのこの建物は、敷地面積2万2,209㎡(6,730坪)、延床面積4万405㎡(1万2,244坪)【注1】というスケールの大きさをもつ。歴史は古く、旧逓信省貯金局の庁舎として1930年(昭和5年)10月に竣工【注2】。設計は大蔵省の営繕管財局、施工は銭高組で、官庁建築らしい古典主義の建造物である。当時の住所は麻布区飯倉六丁目で、徳川侯爵(徳川頼倫)の開設した私設図書館南葵文庫と、元は大名の稲葉家の屋敷のあった場所であり、徳川侯爵邸の跡地はさらにさかのぼれば幕末までは上杉駿河守の屋敷があったという。そうした敷地の由緒正しさにもうなずけるような、威厳と気品がこの建物からは感じられる。

そしていかめしいばかりでなく、個性的に印象づけているのがディテールのモダンな意匠だ。エントランスの底を支持する6本の円柱には卵型の線形が、4層目の柱には幾何学的なパターンが刻まれ、中央階段には波型の柱が設置されている。1925年フランスで開かれたパリ万国博覧会によって、アール・デコが装飾様式の一つとして全世界に広まりその影響が日本にも及んだというから、当時としては最新のデザインを取り入れたのであろう。現在においても、外観の見どころといえよう。

建物の使われ方には、長く複雑な経緯がある。貯金局は後に三田の旧逓信省簡易保険局へ移り、1943年(昭和18年)逓信本省がそれまでの木造の建物では空襲による被災を受けやすいことから、頑丈なこの建物で転用を開始。1945年(昭和20年)罹災した麻布郵便局が仮住まいし、翌年本住まい。1949年(昭和24年)、逓信省が電気通信省、郵政省の二省に分離され、旧郵政省が1969年(昭和44年)霞が関の旧郵政省庁舎へ移転するまで、本省庁舎として使用していた。2005年(平成17年)旧日本郵政公社東京支社がこの建物へ移転し、2007年(平成19年)10月1日以降の民営化後も、日本郵政グループ飯倉ビルとして使用し今日に至る。地域住人や在勤者になじみの深い麻布郵便局は、現在、向かって右側に入り口がある。

1984年(昭和59年)から1987年にかけて、大規模な改修工事が行われている。外観は旧館のイメージを残すべく、タイルを全面貼り替え、化粧柱などの装飾も最新の技術と素材で復元した。2003年(平成15年)には耐震改修工事も終了し、大切に保存し続けられている。用途を転じながらも長い時を刻み続けてきたこの建物は、まさに麻布の宝ともいえる貴重なものだ。散歩の折りに、いまいちど鑑賞してみたいだろうか。

取材協力/芝浦工業大学 工学部建築学科 南一誠教授
銭高組

- 参考文献/1「逓信省の建築」張菅雄(常盤書房)
2「郵政百年史」編集・郵政省(財団法人通信協会)
3「郵政建築 通信からの軌跡」監修・日本郵政(建築画報社)
4「港区の歴史的建造物 港区歴史的建造物所在調査報告書」(港区教育委員会)
5「南葵文庫 目学問・耳学問」坪田茉莉子(都朋社)
※本文中の【注1】は資料2、【注2】は資料1の記載による

(取材/高柳由紀子、田中亜紀、森 明文/田中亜紀)

5.6 建物正面の階段ホール。御影石の柱には連続する波型の模様が。
7.8.9 太い円柱は、近くから見るとこの迫力。卵型の造形が芸術的である。
10 アール・デコ様式を思わせる規則的に並んだ幾何学模様の柱と時計台(現在は未使用)が、古典主義の建物に新しいデザインの潮流を感じさせている。



11 以前、郵便局は建物の左側に置かれていたが、昭和59年の改装時に、右側に移転。
12 郵便局オリジナルのポストカード。各局で発売しており蒐集マニアもいるとか。
13 麻布郵便局の風景印は、窓口で郵便物を出す際に申し出ると押印される。麻布山・善福寺の社寺と逆さイチョウをデザインした美しい絵柄である。

麻布びと

未来へ残したい麻布の声



西川 正さん (84)

「江戸時代を偲ぶことさえできる、この街が大好きです」



馬力屋が多かったこの地に相応しい、馬頭観世音も自宅近くにある。

住み続けられる街で暮らしていく

4代にわたり西麻布に百余年

西麻布。麻布エリアの文字通り西に位置する。西麻布の交差点はかつての霞町。タクシーの運転手さんに「霞町まで」と告げても、充分通じる町の名だ。ここから根津美術館方面に上がって行くあたりが西麻布2丁目。この地で長年たばこ店を営んできた西川正さんは、息子さん含め四代にわたり住み続けている。街の変遷は幼い頃からの記憶の数々と、趣味の写真を通じての貴重な定点観測記録として連綿と留められてきていた。

私は昭和元年(1926)12月25日(大正天皇崩御の日)、正に元年初日の生まれです。7人兄弟の末っ子でね、お袋は1歳の時に他界しました。

爺さんの代に広島尾道から、この近くに親戚がいたこともあり、上京して麻布筈町に居を構えました。明治の終わり頃ですかね、爺さんは馬力屋をやっていました。馬を使つての運送業です。この辺りには何軒もの馬力屋があって、物心ついた時に道の脇に馬が繋がれているの見た記憶があります。ただ、私の家ではもうやっていませんでした。

馬力屋の商売自体は戦争中の頃(昭和20年)まで残っていました。戦争が始まって、どんどんガソリンも不足してくるから、需要はあったんですね。馬に荷を積んで疎開したという話も聞いています。

動物つながりといえば、私は本物のハチを見ているんですよ。世田谷に親戚がいたので、玉電 ※1 に乗ってよく遊びに連れて行ってもらいました。

当時はそんな有名な犬とは知らずに見かけていたのがハチなんです。渋谷駅前の焼き鳥屋さんの前あたりに大きな犬がいるな一、くらいの印象を持っていて、後で「忠犬ハチ公」と知りました。昭和10年(1935)に死んでますから、私が見たのは、飼主の上野先生が亡くなった後の正に忠犬ハチ公なんです。

西川さんは現在須美江夫人と2人の息子さんと4人暮らし。ワインバーを営んでいる長男の正則さんも加わって、賑やかなインタビューに。正則さんが「駒場にある帝国大学(今の東京大学)農学部で先生、上野英三郎博士は青山墓地に眠っているんです。そこにハチ公の祠もありますよ。剥製は国立科学博物館にあります」とフォロー。

小学校は 筈小です。当時、外苑西通りの通り自体ありませんでした。今は、ピストロ通りといわれる、1本渋谷寄りの道がメインストリートだったんです。この道が私の通学路でした。都電が霞町交差点をクロスして2系統走っていましたから、交差点辺りは賑やかでしたよ。渋谷～新橋の6系統は渋谷～青山6丁目～霞町～六本木～溜池～新橋を。7系統は品川駅前～泉岳寺前～魚籃坂下～古川橋～天現寺橋～霞町～青山1丁目～四谷3丁目を走っていたので、どこへ行くのにも便利でしたね。青山通りに出れば、地下鉄銀座線を利用できましたから。

当時の子どもの遊び場は青山墓地、脳病院周辺 ※2、長谷寺、東武鉄道社長・根津嘉一郎邸(現在の根津美術館は昭和16年開館)周辺でした。根津邸からこちらへ下ってくるあたりは畑や果物園が広がっていて、この光景は、昭和30年代の長男が生まれた時期まで同じでした。



昭和31年頃、お店の前で正則さん。遙か後方の根津美術館方面は畑があり、梨園もあった。

この坂を、毎日兵隊さんたちが行進していました。今の国立新美術館周辺が、戦前は歩兵第3連隊の駐屯地でした。我が家の前を通って、現在の代々木公園へ訓練を受けるため、行進しながら通過していました。今の青山公園～



右上の写真と同じ店先にて、奥様の須美江さんとならんで。

デニーズのあるあたりは軍隊の射撃場で、鉄砲山と言われてました。歩兵第3連隊も巻き込んだ2.26事件は私が小学生の昭和11年(1936)の時のことです。 ※3



昭和34年頃 正さんと長男正則さん。根津美術館方面への道幅は変わらない。現在の根津美術館、通称「根津坂」方面を臨む。



左の写真の現在の様子

正さんの小さい頃から、根津邸(現・根津美術館)から西麻布方面への緩やかな坂はあったそうです。歩兵第3連隊が毎日行進していった坂。実はこの坂に名前はありません。「坂って、人が行き来して初めて名前がつくわけですよ。江戸時代は人なんて誰も通っていないので、名前がつかなかったんですね」と、正則さん。地元では通称「根津坂」と呼んでいます。

私は実は疎開しなかったんです。大空襲があった3月10日、両親と姉は空襲にあいましたが、私はたまたま留守にしてて助かりました。その後、母と姉は疎開して、父と私は近所に1軒だけ洋館の家が焼け残り、そこのお宅で世話になりました。

やがて結婚。「私が嫁いだ時は、今も商売している煙草屋(兼荒物屋)の店は既にありました」と須美江さん。



昭和31年頃、煙草屋の前で、荒物、切手など扱う商品は多かった。

戦前から商売してましたが、焼け野原になって戦後すぐ、配給の材木を買う許可証をもらって、早々に家を建てて、すぐに再開したのです。当時の楽しみは映画鑑賞。西麻布交差点近くの三井住友銀行の場所には歌月演藝場があって、寄席や地方巡業の役者たちが公演してました。その後に南星座という映画館が同じ場所にできたんです。(正さん)

結婚した当時間もその映画館、ありましたよ。霞町も賑やかでしたが、「銀行は十番に行っていましたよ」(須美江さん)

その後1964年(昭和39)の東京オリンピックをきっかけに、周囲も大きく変化していきました。首都高速3号線が六本木通りと並行に走り、ビルやマンションがどんどん建設されていきました。外苑西通りが開通したのも、この頃です。高度成長期、正さんもサラリーマン生活が忙しく、留守番役の須美江さんが 煙草屋ののれんを守り続けてきました。

確かに人の流れは増えましたが、いまだに我が家の近くには庚申塔が残っていて、江戸時代を偲ぶことができるんです。この道がメインだったんですね。建てられたのは1865年(慶応元年)の幕末です。行き交う人たちが迷わないための道しるべの石碑です。「右 あをやま 内とうしん宿、堀ノ内 左 二十きおくみ、百人おくみ、ぜんこうじ」とあります。 ※4

家自体、私が小さい頃から少し移動していますが、今の店前の道幅は昔とほぼ同じ。変わらないところもたくさんあって、そんなところが私は好きですね。西麻布以外で住むことは考えられないです。ずっと住み続けたいと思っています。



人々の大切な道しるべだった、江戸末期の庚申塔。

※1 玉電(玉川電気鉄道)。渋谷～二子玉川を結ぶ路面電車。
※2 脳病院 斎藤茂吉の義父が1907年(明治40)に開院した青山脳病院のこと。青山墓地脇にあり、1924年(大正13)全焼。建て替えたが、1945年(昭和20)再び空襲で全焼。同年東京都に移管され、世田谷区に移転。現在は東京都立小児総合医療センター。茂吉の息子、作家の北村寿夫は青山脳病院を題材にして「検家の人々」を著している。
※3 2.26事件、日本の陸軍皇道派の影響を受けて、青年将校たちが1483名の兵を率いて起こした軍事クーデター。第3歩兵連隊のメンバーも多く関わった。
※4 庚申塔には「右 青山、内藤新宿、堀ノ内(杉並区)。左 二十騎御組(青山の幕臣が住んでいた南青山4～6丁目)、百人御組(青山通り沿い)、善光寺(北青山)」



麻布台一丁目を巡る

麻布郵便局の周りを一周するだけのさんぽコースですが、坂道あり階段あり立ち寄りスポットありと、楽しみ方もいろいろです。



今回は麻布郵便局から出発。



東京タワー方面へ進みます。



すぐ左側に「丸い輪のついでに屋根」が見えてくるので、そちらの方向に進みます。



またすぐに右側に現れる東京タワー。



突き当たりをまた「丸い輪の屋根」のほうに進みます。



坂の途中、いちようの木から落ちたさんなんを拾ってちょっとした秋を感じつつ、



右側の階段坂を下りると「丸い輪の屋根」の建物が見えてきます。この「雁木坂」、敷石が直角に組まれ、その名の如くまさに「ぎざぎざ」の坂でした。



交差する道を左折し静かな住宅地を歩きます。



階段下の道を巨大建物方向へ進み、



「さんねん坂」も階段坂。緑の壁と石段の先は、新旧高低混じりあった様々な建物が広がる景観。



道の突き当たりには、「さんねん坂」の可愛らしい文字が刻まれた石標識。



階段上に戻り石垣に沿って一気に進みます。



味のある白壁の角を左に曲がると、



「落合坂」の案内がありますがどこに坂があるのか見つからず、そのまま進んでいくと、



途中、近代書道の父とも言われる「吉田苞竹」の記念会館や、



横山省三記念公園など近代に活躍した著名人ゆかりのスポットがあります。



公園の先、広い道路に出るところにまた「落合坂」の案内が。振り返るとほんの少し上り坂であったことがわかります。



突き当りは左右共上り坂。左の坂道を上ると、



坂の案内を見て、ここが下ってからまた上る「行合坂」であることがわかります。



Goal

出発地点の麻布郵便局に戻ってきました。

(取材/鈴木敏江、鈴木美砂 文/鈴木敏江)



「ご本人、ご家族、われわれが力を合わせて目標に向かいます。回復は、関係者全員による成果です」
理学療法士 千明 譲 さん

世の中にはいろいろな仕事があります
理学療法士

子どもに生きていく力を

親子で読んでみよう

KIDS! ハローワーク



歩行訓練のための特別な靴の重さに驚き、また、まひした足を支えるための仕組みに見入るジュニア編集員

やさしさときびしさを兼ね備えたりハビリの専門家

今回のテーマは理学療法士の仕事です。本紙 Vol.15 (前号) で取り上げた「ありすの杜」(南麻布) 内にある介護老人保健施設にお勤めの理学療法士・千明譲さんにお話をうかがいました。

ジュニア編集員は大智くん(7歳)、響ちゃん(10歳)です。

理学療法士とは、どういうお仕事ですか？

わかりやすくいうと、病気やけがが原因で出来なくなってしまった「歩行」を再び出来るように、お手伝いしていく仕事です。主に、胴体～下半身のリハビリが専門です。実際は、施設において一人の入居者さんを担当するにあたっては、私自身がお食事のお世話等生活全般を通してサポートし、信頼関係を築いていきます。一方、「作業療法士」という似た名前の職種がありますが、こちらの方では胴体～上半身、すなわち、手先を使った作業のリハビリを中心に行います。

このお仕事につくきっかけは何でしたか？

もともとは飛行機が大好きで、大学は工学部の専攻でした。けれど、大学病院でアルバイトをしたことがきっかけで、「感情のある人間を相手にした仕事に就きたい」という気持ちが芽生えました。今思えば、祖父母と同居していたこと、母が看護師だったことも影響しているのかも知れません。早い時期に将来を自問自答し、やりがいのある仕事にめぐり合えてよかったと思います。大学卒業後は、日中に福祉の現場で働き、夜間に専門学校に通う生活を送り資格を取りました。



(上) 「運動量と減量の関係について」親切に教えてくださる千明さん
(下) 千明さんが患者さんと一心同体で臨む歩行訓練の現場

どうしたら理学療法士になれますか？

大学へ進み、一般教養の他、実習を含む理学療法専門のカリキュラムを経て、国家試験を受けて資格を得るのが一般的だと思います。あとは医療・福祉、それぞれの「現場」に出てからの経験が何よりも大切です。働き始めてからも研修や勉強会の機会は多いです。

お仕事をされていてよかったと思うことはどんなことですか？

それはやっぱり歩けなかった人が歩けるようになったときです。もちろん私ひとりの成果ではなく、関係者全員でアプローチした結果ですね。また時には患者さんが「痛い」と訴えるのをがまんしてリハビリに耐えていただき、にくまれる場合もありますが、結果を出すことで信頼関係が生まれます。根気強さ、やさしさときびしさを兼ね備えた人が向いていると思います。

理学療法士を目指す後輩へメッセージを。

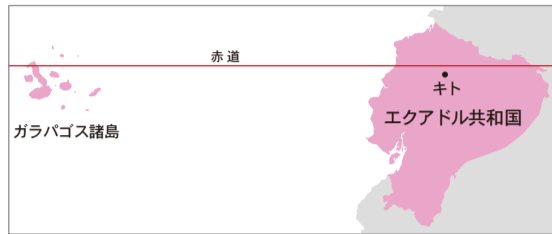
人間のもっている回復能力を引き出し、出来なかったことを出来るようお手伝いをする、というのは、本当にやりがいのある仕事だと思いますよ。

インタビュー後、特別にご本人の了解を得、脳の病気で右半身がまひしてしまった方の歩行訓練を間近で見せていただきました。ジュニア編集員たちは初めて見るリハビリの現場にかなり緊張しながらも、訓練用の特別な靴を運ぶお手伝いをしたり、声をかけてみたり、...「現場」に触れる貴重な体験をしました。

(取材/石山恒子、大村公美子、大村響、鈴木大智 文/大村公美子)



エクアドル共和国
 面積： 25.6万平方キロメートル（本州と九州を合わせた広さ）
 人口： 1400万人（2010年 国家統計調査局）
 首都： キト
 民族： 欧州系・先住民混血79% 欧州系8% 先住民7%
 アフリカ系・アフリカ系との混血3%（2001年 国勢調査）
 言語： スペイン語
 宗教： カトリック
 政体： 共和制
 元首： ラファエル・コレア大統領
 議会： 一院制（任期4年：計124議席）
 外務省ウェブページ
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ecuador/data.html>より



特命全権大使：フェルナンド・ハビエル・ポンセ・レイバ 閣下
 取材協力/エクアドル共和国大使館

大使を訪ねて ⑮ 麻布の"世界"から



Ecuador



多様性の国エクアドル

赤道直下のエクアドルは全ての面で「多様」な国だ。まず地形。5000m級の山々がそびえるアンデス地方では、山に挟まれた峡谷に都市が広がり、人口の大部分がここに集中している。この地方では今でも伝統が大切に守られている。一方海岸線に沿って広がるコスタ地方の人々は、明るく楽しい気質で、新しい文化をどんどん取り入れてきた。バナナやカカオの生産がはじまると、アンデスから多くの人々が移り住んだ。そして最も内陸側に位置するのが密林に覆われたアマゾン地方。多くの自然が残り、資源が豊富で、先住民が今でも昔ながらの生活を営む。最後に有名なガラパゴス諸島。暖かい潮と冷たい潮がぶつかるこの諸島には、ここでしか見られない貴重な動植物が生息する。地形の多様性により、高山では雪が降るが、ジャングルやビーチは常夏というから気候も極端だが、エクアドルでは人種もさまざま。スペインの植民地だったことからスペイン語が公用語でスペイン系が多いが、そのほかにもヨーロッパ系、パレスチナ系、レバノン系、そしてパナマ運河建設を助けた中国系など、多様な文化が共存する。

エクアドルの最大の特徴、「多様性」について説明してください。ハビエル・ポンセ大使は、長身で南米の方らしく大変に明るく楽しいお人柄だ。ペルー、ベネズエラ、スイス、アメリカ、スペイン、モスクワなどの要職を歴任したが、アジアは日本が初めて。日本への赴任は日系3世であるブラジル国籍の奥様の希望もあった。お二人はボストンのハーバード・ケネディ・スクールで出会い、その後マドリードとロンドンの遠距離恋愛が続き、ならば結婚ということになった。日本には2人の子どもたちも一緒に滞在している。

日本に来て驚いたことは、来日前「ビジネス」「まじめ」「侍」「腹きり」と、どちらかというとクールで厳しいイメージを持っていたが、住み始めて印象が全く変わったこと。クールどころか、人々の温かさに感激したのだそう。例えばベビーカーに子どもをのせて有栖川宮記念公園に遊びに行くと、知らない人が「かわいい」と声をかけてくれる。言葉がわからなくても、フレンドリーに接しようとトライしてくれることがとても嬉しく、日本人は親切で温かいと感じている。

エクアドルと日本は似ているところが沢山ある。実はこのことに着目して、なんと本まで出版することになっている。例えばエクアドルには標高5897mの活火山、コトバクシがあり、富士山と姿、かたちが似ている。火山があるために、周囲には温泉が豊富に湧き、こちらも日本に似た風土。食文化にも類似点



が多く見られる。エクアドルでも米が頻繁に食卓に登場する。大使も週に2~3回は召し上がるという。日本と同様、米は炊いて食べる。タイ米のような形で、種類は異なるが、おかげで日本でも食生活で困ったことはない。大使が一番好きな日本食は「刺身」。エクアドルでも生の魚を食べるからだ。「セビーチェ」といって、イタリア料理のカルパッチョに似ているのだが、生の魚をスライスしてオレンジ、レモン、チリ、塩などでマリネ風にしたもの。もちろん寿司も大好きで、西麻布や六本木ヒルズの寿司屋がお気に入りだ。

エクアドルと日本は、太平洋を挟んだ隣国であり、今までは特に経済を中心に交流を深めてきた。もちろん大きな会社とのビジネスも大切だが、今後は文化的・社会的な交流も広めていきたいというのが大使の希望だ。なぜなら会社は会社の利益で動くが、人と人レベルの交流は継続するからだ。前出の本の出版のために、日本の大学教授をエクアドルに送り、エクアドルの日本に対するイメージを人々から聞き、写真をとってきた。このプロジェクトも人レベルの交流を深めるためのもので、エクアドルから日本にも人を送って同じ調査をしている。2月には大使館主催でエクアドルの魅力を紹介する「世界遺産都市キト、クエンカ絵画展」も東京都庁南展望室にて開催される。ガラパゴス諸島まで出向くのはちょっと無理、という麻布の皆様も、是非この展示会で多様性に富むエクアドルの魅力を感じてみてはいかがだろうか。

(取材・文/加藤智恵、高柳由紀子)



- ①② ガラパゴス諸島は世界遺産第一号。暖かい潮と冷たい潮がぶつかる場所に位置するこの島には、同じ種類でも、この場所の特異な環境により、他と違う進化を遂げた独特の動物・植物の実例を多く見ることができる。ダーウィンが進化論の着想を得た島としても有名。(エクアドル大使館提供)
- ③ 標高5897mの活火山コトバクシ。(エクアドル環境省提供)
- ④ パナマハット。パナマ運河を作りだしていたアメリカ人が身につけたのがはじまりで、こう呼ばれるようになったが、もともとエクアドルのもの。パルサというとても軽い植物からできていて、たたくで旅行にも持っていく。
- ⑤ 象牙椰子は象牙のように美しく細工もしやすいが、動物を犠牲にしないので環境にやさしい工芸材料として人気。

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート



レストランオーナーシェフ Owner Chef

Mario Frittoli

ようこそ、“マリオの小径”へ！



西麻布交差点の南西の角から渋谷方面に1本目の路地を左折して広尾方面に少し歩くと、左手にあるビルの2階にイタリアン・レストランが見えてきます。

この店の経営者でありシェフでもあるマリオ・フリットリさんはイタリア・ロンバルディア州のパヴィア生まれ。最初に日本を訪れたのは1987年のことで、以前から師事していたポール・ポキューズ氏が大阪・梅田の大丸百貨店に出店する際に来日。次に日本を訪れることになるのは1990年で、以来東麻布や白金台のレストランを中心に活動し、TV番組にも出演するなど多方面でご活躍中です。現在の奥様とはテレビのコマーシャルで共演したのをきっかけにご結婚。今は13歳になる可愛いお嬢さんもいらっしゃいます。

西麻布にお店を構えたのは2008年8月。「マリオ・イ・センチエリ」というお店の名前は、イタリア語で“マリオの小径”という意味で、“どうぞ我が家（レストラン）へお越し下さい”との思いがこめられています。店内は照明を控えめにした落ち着いた雰囲気ですが、そんな中でどこかつろいだ気分になるのは、店内のオープンキッチンからスタッフの方の姿がよく見えるせいなのでしょう。お店を訪れるお客様の半数近くは外国人の方ですが、マリオさんに会うのを楽しみに足を運んでくださる方が多いので、多忙を極める



日々の中でもお店でお客をお迎えすることは欠かしません。

レストラン経営のほか、お料理教室、テレビ番組出演、通信販売、コンサルティングなど多角的な事業を手がけるマリオさんにビジネスについて伺いました。「ビジネスとはサッカーチームのようなもので、スコア（お客様からいただくお代金）は、それぞれのスタッフが各々の守勢や攻勢（役割）を果たして全員で勝ち取った結果です。経営者がどんなに立派なビジョンを打ち立てたところでスタッフがついてきてくれないとビジネスは成り立たない。だからこそ人が大事なのです。東京の競争はとてつもない。日本人は繊細な味覚を持っていて、単に“おいしい”だけではお客様は足を運んでくれないのです。一方で「毎日忙しくてそれはもう大変だよ。だけど僕はスーパー・マリオだからね」とエネルギーあふれる笑顔とユーモアも忘れません。「シェフはアーティスト、料理はエンターテインメント。“おいしい”と言って食べてもらえる瞬間がなにより嬉しいです」。

料理はコミュニケーション手段の一つだと語るマリオさんは、西麻布は日本人も外国人もお互いが生活の一部でいろいろな文化が共存しているので、今後は日本人と外国人が一緒に楽しめるようなイベントを増やしてほしいと願っています。

（写真提供/マリオ・フリットリさん）

（取材/大村公美子、鈴木敏江、福本綾子 文/福本綾子）

地域社会
の
ゆくえ

6

市民型活動事業として

有栖川宮記念公園の環境を考える



池の底に水質改善のための実験材料を入れている様子

日本古来の林泉式庭園の景観と、起伏のある地形を生かした有栖川宮記念公園の自然環境を守るため、平成20年度に一般公募による『有栖川宮記念公園自然環境回復プロジェクト』がスタートしました。平成21年度には『魅力ある有栖川宮記念公園づくり検討会』が発足。水質改善作業部会では、今年度の活動として、『水底や生き物が見える水質を目指して』を目標に、公園の自然環境改善について話し合い、研究、実践してきました。

平成21年度から係わってこられた区民メンバーの町田迪子さんは「近所に住む者として環境を整えたい、特に有栖川宮記念公園は高低差のある公園で、愛着を持っています。自然豊かな公園の緑や、水辺のある環境を守り育みたいと思って活動に参加しています」と話され、続いて「清掃活動の折は、池の中に

入ってゴミを取られたこともあると伺いましたが」と尋ねると「ええ、それはまあ・・・」と控えめな様子でした。

メンバーで南麻布広尾町会副会長の青山哲さんは、「池の水位は昔はもっと低かった、水位をもとに戻してほしい。また、池の土（泥）は田圃にも使えるような土なので、根こそぎ取るのは止めて、ある程度残してほしい。かつての水位と日本庭園の良さを守ってほしい」との思いを話されていました。

今年国連の「国際生物多様性年」であり、生物多用途条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋で10月に開かれました。

「多くの生物が絶滅してゆく」という生態系の危機が叫ばれているときです。

有栖川宮記念公園では、平成20年度に区が実施した調査で、583種類の生物が確認されました。重要種も16種類確認され、港区の区立公園のなかでは、種類数・重要種数とも最多で、生物の生育・生息の重要な拠点になっています。

藻類による水域生態再生・浄化の研究をされているメンバーの吉田昭彦さんは、ご自身の研究について「1997～2002年に『京都大学未来開発プロジェクト』がおこなった琵琶湖での総合的な調査・研究の結果、水域生態系では、遅く・安定した流れ（1時間に約20センチ）の重要性が指摘され、その後多摩川でのフィールド調査と実験により、ケイ藻や緑藻の繁茂と、遅い流れの関係が実証されて、その特許を得ています。今夏、有栖川宮記念公園で行った水域生態再生・浄化に向けた実験では、良好な結果が得られています」というお話でした。

有栖川宮記念公園の自然環境の回復計画は、積極的な区民の参加による、活動や専門的な見地から『水底や生き物が見える水質を目指して』という目標に向けて進められ、関係者が熱心に取り組んでいます。

近隣住民から「ゴミを捨てて行く人は多いが、黙々とゴミを片付けて帰る人や団体もいる。要は心の問題です」との言葉も印象的でした。そこには、有栖川の自然の四季を心から愛で、支える人々の奉仕的精神がありました。



町田 迪子さん



青山哲さん



吉田昭彦さん

（取材/倉石哲良、浅川一枝 文/浅川一枝）

麻布教会会堂（震災前）明治22年完成
大正12年の関東大震災で大破損し取り壊す。
「鳥居坂教会百年史所収」



きみちゃん像にまつわる麻布物語

麻布の軌跡



麻布十番パティオのきみちゃん像



港区立郷土資料館編
増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木所収
左:大正13年 右:平成21年
地図内赤印 編集部記入

「来年はきみちゃん没後百年の年だよ」の言葉から、赤い靴のきみちゃんについて調べてみた。昭和生まれ以前の人であれば、聞いたことがある野口雨情の「赤い靴」の童謡。今では子どもたちが歌うこともないかもしれない。没後百年を期に、明治後半の麻布を振り返り、改めて麻布のきみちゃん像について考えてみたい。

「赤い靴」きみちゃんアカデミーのメッセージ

きみちゃんのモデルとされる岩崎きみちゃん没後百年との情報は、六本木アイビスが開催する教育・セミナー「赤い靴」きみちゃんアカデミーの六本木探検隊メンバーの方より、知らされる。きみちゃんアカデミーでは、童謡「赤い靴」の女の子きみちゃんの短く悲しい生涯から親子、家族の絆、子どもの人生を皆で考え、その輪を広げていくための活動とのこと。そこで、その講師を務めた立教大学立大学院史資料センター 鈴木勇一郎先生にお話を伺う。「赤い靴」のモデルとされるのが岩崎きみちゃんかどうか正確なところはわからないが、確かに麻布で暮らした後、九歳で結核性腹膜炎のためこの世を去り、青山霊園の鳥居坂教会の墓石に眠っているとの情報を得た。

彼女の生涯は悲しいものではあったが、当時の時代背景から、そのような子どもたちがけっして珍しくはなかったことが推察される。

実際にその頃の麻布はどのような暮らしであったのか？きみちゃんのお墓は本当にあるのか？

そして私たちは「鳥居坂教会百年史」や、「東洋英和女学校五十年史」「麻布区史」などを調べながら、鳥居坂教会へ、青山霊園へ、その軌跡を辿ることとなる。

明治後半の社会背景と麻布

まずは「麻布区史」※1 第四編 明治以降の麻布 第十二章 社会事業によると、不遇なる児童への児童保護事業について記されている。

第六節 其他

以上の外本区の私設社会事業として認むべきものにはカナダ婦人伝道会永坂ホーム及び報恩会等がある。以下省略

この文面によると、「永坂ホーム」は宣教師ミスマンロー、ミスカートル等が明治27年に三人の子女の人身売買救助に初まり、明治29年に社団法人永坂孤女院を起したとある。

その他にも、明治21年と35年ともに、財団法人の乳幼児保育施設が広尾町に設立されたとの記述があり、その時代の麻布では、救済すべき子どもたちが数多くいたことが伺い知れる。



青山霊園にある鳥居坂教会の墓碑



永坂孤女院（明治41年）階下は日曜学校
「東洋英和女学院所蔵」



生徒たちの愛の業による「恵風学校」と「孤女院」開設

この「永坂ホーム」と「孤女院」について、鳥居坂教会を訪ね張田主任牧師にお話を伺った。

麻布教会の歴史※2は、宣教師マクドナルドが明治16年秋に、麻布永坂町五十番地に土地を購入し、翌17年に※3 東洋英和女学校を創設、生徒の信仰を育てる場として明治18年に麻布教会堂を新築。社会奉仕の精神はここから生まれ、明治27年頃までには、※4 麻布一本松の地に、東洋英和女学校の生徒による貧困児童の教育機関「恵風学校」が設置される。同時期に、「孤女院」も開設。

麻布十番に住む貧しい三人のうち一人が売られようとしているのを知った女生徒が、有志をつのり、その子と他の一人を引き取ったことではじまる。その後明治41年に麻布永坂町五十番に移転。以来「永坂孤女院」と呼ばれ、昭和3年に「永坂ホーム」と改称。

きみちゃんは、この「永坂孤女院」で過ごした後、9歳でその生涯を閉じた。

張田主任牧師のお話によれば、詳しい記録は関東大震災と戦災により焼失してしまいわからないとのこと（※5 昭和16年より麻布教会より所在地名による鳥居坂教会と名称を変更）、本棚より「鳥居坂教会百年史」取り出し、そしてその内容から、きみちゃんが実在し、青山霊園の鳥居坂教会の墓地に眠っていることは確かであること、墓碑には佐野きみとかかかっていることとその場所をお聞きした。

きみちゃんを追いかけ、麻布の過去から現在を確認するため、港区近代沿革図集の当時の地図と町名を照らし合わせてみた。もうすでにどこにもその面影は残されていない。唯一残る、青山霊園の鳥居坂教会の墓地まで行ってみた。確かにその名はあった。

かつての麻布を思い描いてみる。麻布十番、麻布一本松、麻布永坂町、そして鳥居坂教会。

現在、麻布十番パティオに「きみちゃん」像は、ただひっそりと静かに佇んでいる。

全国に広がるきみちゃん像 親子・家族の愛の絆を広げよう！

多くの人を知る、あの物悲しい野口雨情「赤い靴」のきみちゃん像は横浜の波止場にある。その他に、生まれ故郷の静岡県日本平山頂、母かよさんが入植し開拓農場のあった北海道留寿都村、義父 鈴木志郎の生まれ故郷、青森県鮎ヶ沢町、六つ目が北海道函館、そして七つ目はかよさん夫妻が晩年過ごした北海道小樽市の運河公園に。小樽と鮎ヶ沢町は親子三人の像。麻布十番のきみちゃんは三つ目の像である。

短い生涯を寂しく過ごしたきみちゃん。麻布の地で温かく迎えられる、青山霊園に眠るきみちゃん。

明治以後、世の中が大きく変わり、その渦中で麻布の慈愛の精神に助けられた子どもたち。子育てに不安を抱える親が多い中、きみちゃん没後百年を機に、麻布の地で親子・家族の絆についてあらためて考えてみたい。

- ※1・2・3 東京市麻布区役所 編集兼発行 吉田政一 麻布区史 p.735~738・p.39・p.45
- ※4 鳥居坂教会百年史 編集 鳥居坂教会百年史編集委員会 発行 日本基督教団 鳥居坂教会 大濱徹也著 p.55
- ※5 鳥居坂教会百年を迎えて 発行 日本基督教団 鳥居坂教会 p.40

取材協力/鳥居坂教会 張田主任牧師
立教大学立大学院史資料センター 鈴木勇一郎先生
六本木アイビス「赤い靴」きみちゃんアカデミー
東洋英和女学院

(取材/石山恒子、森 明 文/石山恒子 タイトル/高橋 光)



Living in AZABU

★ あのね。リース!! ★

いかがおすごしですか？
楽し忙しの季節がやって来ましたわね。
クリスマス、大みそか、お正月、そして Valentine ♡

お食事やおしゃれやプレゼントや、それぞれの場合の
カードの用意や。いろいろ創作的意欲を
かきたてられています。

リースメイキングもふだんの暮らしの中の
何気ないdesignから、折々のシーズンの
派手な(!)ものまで。

お散歩の途中の公園でやなぎの枝なんかを
拾えたりするチャンスがあったら、やった★ラッキー★
丸型にくるくると巻いて少しわがわがして。

(平らな面に置いて)はかな気に少し葉っぱetc.を
くっつけたり。←これが好き かつこいいから。

お子ちゃん達にはキャンディーやクッキーを(本物)
くっつけたdesignもかわいいし。

おりボンもひもも何でもとり入れて。
Idealには限りがないですね。

どうぞ楽しい日々をおすごし下さいね。
おかげ等お召しになりませぬよう。



(イラストレーション・文/湊 早苗)

How about making wreath?!



あざぶ地域「ちょっと立ち寄りカフェ」オープンのお知らせ

地域の高齢者の皆さんが気軽に集まってお話できる交流の場として「ちょっと立ち寄りカフェ」がオープンしました。初回の10月27日(水)には30名の方にご参加いただき、楽しいひとときを過ごしました。このカフェは住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにつくられた皆さんの仲間作りの場です。麻布地区総合支所区民課保健福祉係とNPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジンが行っています。申し込みは不要です。ちょっと気軽に立ち寄ってみてください。

とき 平成23年1月26日(水)、2月23日(水)、3月23日(水)
時間は各回とも午後1:30~3:30
ところ 南麻布福祉会館(南麻布1-5-26)
参加費 100円(お茶代)

お問い合わせ/
NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン
電話/ 03-5368-1955
麻布地区総合支所区民課保健福祉係
電話/ 03-5114-8822



「無作為抽出」による区民ワークショップイベント あざぶ「AZABU ミーティング」を開催します

「参加のご案内」が届いた方は、ぜひご参加ください！
麻布地区総合支所では、区政運営の基本方針である港区基本計画・麻布地区版計画の見直しにむけ、区民参画組織・麻布を語る会「基本計画協働推進分科会」をはじめとする、地区内のさまざまな区民意見や提言を募っていきます。

このたび、麻布地区版計画の施策や事業の見直しを進めていくなかで、より多くの区民の方々に麻布地区での区の見直しの周知や新たな参画を働きかけていくため、ワークショップイベント参加区民の募集を、無作為抽出の方式により行うこととしました。

無作為抽出による参加者決定
20歳以上の麻布管内の区民の中から、無作為で抽出した1,500人の方(該当者には平成23年1月18日(火)に「参加依頼書」を発送)のうち、承諾いただいた40人に決定します(40人を超えた場合は抽選)。

ぜひご参加ください
参加いただく区民の皆さんには、事前に、港区基本計画・麻布地区版計画書の内容や、区および麻布地区総合支所の取り組みなど、検討に必要な情報をお知らせします。また、一時保育や手話通訳にも対応します。ささやかながら記念品も用意しています。傍聴も自由になりますので、希望される方はお問い合わせください。

活動内容 ワークショップ「AZABUミーティング」への参加
日程 平成23年2月26日(土)
会場 麻布管内施設を予定
ご意見の活用

「AZABUミーティング」でいただいたご意見やご提案は、区の施策や事業の改善に活かしていくとともに、平成23年度に見直す港区基本計画・麻布地区版計画に可能な限り反映させていただきます。

お問い合わせ/
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話/ 03-5114-8812



読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてもらいたい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。



ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント!
「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。
●電話で03-5114-8812 (月~金/午前8:30~午後5:00) ●ファックスで03-3583-3782
●郵送で〒106-8515 港区六本木5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛

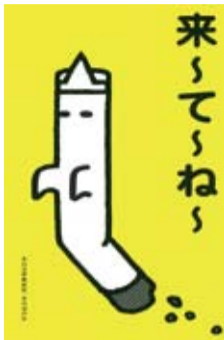


港区麻布地区 総合支所だより

総合支所からの お知らせ

港区のタバコルール、ご存じですか？

「みなとタバコルール」とは、区内全域での路上喫煙・歩行喫煙・タバコのポイ捨てるの禁止をめぐすものです。罰則によって取り締まる手法をとらず、区、区民、企業等の連携や、マナー・モラルの向上によって、路上・歩行喫煙やタバコのポイ捨てるをなくしていこうとされています。



キャンペーンのイメージキャラクタータバコのおぼけ「タバコバケ」

麻布地区総合支所では、「みなとタバコルール」を区民に周知するために、地域の皆さんと一緒に、キャンペーンを定期的に実施しています。キャンペーンにはどなたでもご参加いただけます。日程等については、下記までお問い合わせください。また、希望者には、ポスターやプレート(路上・歩行喫煙禁止プレート、ポイ捨てる禁止プレート)を配付しています。ぜひご利用ください。

年末・年始の防犯対策は万全ですか？

「住まいの防犯対策助成事業」を紹介するため、麻布地区総合支所1階ロビーでパネル展示を実施しています。お気軽にご来場ください。

●展示期間 平成23年1月14日(金)まで

お問い合わせ／

麻布地区総合支所協働推進課活動推進係
電話／03-5114-8802

都税事務所からの お知らせ



平成23年度定期課税分の自動車税の障害者減免申請の事前受付を行っています

身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方で、一定の要件を満たす場合、自動車税・自動車取得税の減免を受けられる制度があります。現在、新たに身体障害者手帳等を取得された方を対象として、来年3月末まで、平成23年度分の減免申請を受け付けています。対象の方は、必要書類をお持ちのうえ、お近くの都税事務所等へお越しください。

受付期間	取扱い
4月～5月まで	当年度から減免適用
6月～翌年3月まで	事前受付期間 ＜減免の適用は翌年度から＞

＜ご注意＞

●4月1日以降に自動車を取得し、課税がある場合の申請期間は、従来どおり登録の日から1カ月以内です。申請期限を過ぎると、当年度の減免を受けられません。

●減免には上限額が設定されています。

お問い合わせ／

都税総合事務センター自動車税課調査係
電話／0570-064-171
(IP電話・PHSをご利用の場合
／03-5985-7814)

麻布警察署からの お知らせ

オウム真理教関係特別手配被疑者に懸賞金500万円(上限額)が支払われます

あなたの情報をお寄せください
手配被疑者

平田信(ひらたまこと)

年齢45歳 身長183cm
逮捕監禁致死、爆発物取締罰則違反
【特徴】ひげが濃い、歯並びが悪い、左首筋に5mmくらいのホクロ

高橋克也(たかはしかつや)

年齢52歳 身長173cm
殺人、殺人未遂、逮捕監禁致死
【特徴】眉毛が濃い、近視(眼鏡使用あり)

菊地直子(きくちなおこ)

年齢39歳 身長159cm
殺人、殺人未遂
【特徴】右こめかみに4mmくらいのホクロ、右目下に1mmくらいのホクロ

懸賞金に関する注意事項

懸賞金は、事件の解決に結びつく情報を提供した方に対し、その寄与に応じて、警察庁から捜査特別報奨金上限300万円および「オウム真理教特別手配被疑者検挙のための懸賞金実務委員会」から懸賞金上限200万円の範囲内でそれぞれ支払われます。詳細は、下記「情報の連絡先」にお問い合わせください。

情報の連絡先／

警視庁刑事部捜査共助課「オウム真理教特別手配被疑者追跡特別捜査本部」

フリーダイヤル／0120-006-024

お問い合わせ／麻布警察署

電話／03-3479-0110

麻布消防署からの お知らせ



クリスマス・忘年会・新年会など年末年始の急性アルコール中毒にご注意！

今年も残りあと僅かになりました。これから年末・年始にかけては、クリスマス、忘年会、新年会など、飲酒に伴う事故の増加が予想されます。それに伴い救急車の出動も増加します。救急出動が増加してしまうと、救急車の到着時間が通常時よりも遅くなってしまいます。救急車の適正利用を図るためにも、自分の適量を知り、飲み過ぎには注意しましょう。

また、「救急車を呼んだ方がいいのか」迷った時は、下記へお問合わせください。

東京消防庁救急相談センター

#7119(24時間対応、年中無休)

つながらない場合は 電話／03-3212-2323

急性アルコール中毒にならないためには

- ①自分の適量を知るとともに、その日の体調にも注意しましょう。
- ②短時間のうちに多量に飲酒(一気飲み)することはやめましょう。
- ③飲酒の無理強い、しないようにしましょう。
- ④周囲の人は酔った人に付き添い、一人にしないようにしましょう。
- ⑤酔った人が吐いた場合、吐いたものがのどにつまらないように注意しましょう。
- ⑥お酒が飲めない体質の方は、周囲の人に「お酒が飲めない体質である」ことを事前に伝えておきましょう。

お問い合わせ／麻布消防署防火管理係

電話／03-3470-0119

麻布税務署からの お知らせ

申告書はご自分で書いて、提出は お早めに

平成22年度の確定申告の相談、申告書の提出および納税の期限は以下のとおりです。

- ・所得税 2月16日(水)～3月15日(火)
- ・贈与税 2月 1日(火)～3月15日(火)
- ・個人事業者の消費税および地方消費税 1月 4日(火)～3月31日(木)

※期限間際は大変混み合いますので、申告書の提出はお早めに。

申告書の提出は、e-Tax(イータックス)、郵便や信書便による送付、または税務署の時間外収受箱に投函することもできます。



納税は振替納税で、還付金の受取は預貯金口座への振込みをご利用ください。

お問い合わせ／麻布税務署
電話／03-3403-0591

国税庁ホームページ／http://www.nta.go.jp

e-Taxホームページ／http://www.e-tax.nta.go.jp

麻布の区民参画……連載④ 語り合い、ともに麻布のまちを住みよくしていきませんか

区民の皆さんとの「参画」と「協働」の取組みについて前号に引き続きご紹介いたします。

■麻布を語る会「地域情報の発信」分科会

【活動内容】本紙「ザ・AZABU」の編集・企画

今は何をやっているの？

3ヶ月後のvol.17発行に向け、取材等の準備をしています。

■麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会

【活動内容】将来に残し、伝えていくべき今の麻布の写真撮影や古写真の収集

今は何をやっているの？

平成23年1月からは親子を対象にした公募によるワークショップの開催や、区役所・支所を会場にしたパネル展を予定しています。



平成22年11～12月にはパネル展を開催しました

古い写真を探しています

どのようなものでも結構ですので「麻布地区の古い写真」を募集しています！ご提供いただいた写真は複製のうえ、記念品とともにご返却いたします。詳細については下記までお電話ください。

■麻布を語る会「基本計画協働推進」分科会

【活動内容】地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現を目指す「麻布地区版計画」の内容についての検証等

今は何をやっているの？

地区版計画の見直しに向け、「ひとにやさしい都市空間のまち」「誰もが愛着を感じるまち」「生活者の目線にたったまち」の3つのテーマに沿って、現状や課題の認識と共有や、解決のための検討を行っています。

※各分科会とも随時メンバーを募集しています。内容については、お気軽に下記までお尋ねください。



お問い合わせ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策係 電話／03-5114-8812

編集後記

村上龍の「13歳のハローワーク」(幻冬舎刊)という本がある。目次を見ると、「花が好き」「音楽が好き」といった、好きなものから職業が検索できるようになっている。好きなことを職業にしている大人は少ないかもしれない。しかし子どもたちには、好きなこと＝職業、つまり遊び＝職業となってもらいたいと思う。好きな遊びこそ、真剣に追求することによってとてつもないエネルギーが発揮されるのだ。本紙のキッズハローワークも、世の中にあるたくさんの職業をとおして、仕事の楽しさを紹介していきたい。(尾崎恭彦)

AZABU

●配布場所のご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

- Chief 尾崎恭彦
- Sub Chief 石山恒子
- Staff 浅川一枝 鈴木敏江 湊 早苗
伊東みゆき 高柳由紀子 森 明
大澤佳枝 田中亜紀 森角香奈子
大村公美子 西野さつき 山下良蔵
加藤智恵 福本綾子
倉石哲良 満木葉子
Junior Staff 石山 茜 鈴木大智
大村 響 鈴木美砂

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752

Eメール／info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service

Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp